韓国朝鮮語におけるブレンディッド・ラーニングによる授業実践
――反転授業の活用――

林　河運

1.　はじめに

近年、外国語学習においてモバイル端末を活用した言語学習（mobile assisted language learning）が注目されているが、韓国語学習に関しても同様の手法について様々な研究がなされている。その成果については、既存の韓国語教育サイトを比較しつつ web を基盤とする韓国語教育の特徴を分析し、提案している研究（우인혜 2000; 이해영 2001）、また、モバイル学習のコンテンツ及び教育方法の設計において必要とされる基礎的な研究（한상미 외 2012; 한상미・김종인 ;2013）など多数の論文において報告されている。しかしながら、筆者が調べる限り韓国における韓国語教育の文献は多く見られるが日本における韓国朝鮮語教育においてはその限りではない。モバイル端末を用いた電子教科書を作成し実践活用をしようとする試みや（鈴木 外 2012）、e-Learning システムを活用し自律学習ができるように授業で実践を試みた研究はあるものの（曹 2008）、特にモバイル端末を活用した対面授業と反転授業を融合したブレンディッド・ラーニング[1]に関する文献はまだ非常に少ないといえよう。そこで本稿では、韓国朝鮮語教育の改善と学習者間での学びの格差を小さくしつつ、学修時間の確保に向けて、島根大学で行った「韓国朝鮮語Ｉ」の授業実践を報告し、授業後に実施したアンケート調査を基に対面授業と反転授業[2]をブレンドした学習活動に対して学習者がどのような意識を持っているのかについて検討と考察を行う。具体的には、2017 年度の前期に筆者が担当した前述の科目において、反転授業を用いることでより多くの学修時間を確保する試みと授業の活性化を促すために行った 7 つの学習活動を紹介する。また、アンケート調査を通じて学習者が授業全般と各学習活動についてどのように評価したのかを検討する。その後、明らかになった検討の結果を踏まえて、韓国朝鮮語教育を改善し、さらにその結果を反映した教材開発の可能性を探りたい。

---

[1] 宮地（2009）によれば、ブレンディッド・ラーニングの定義には狭義と広義があり、狭義でのブレンディッド・ラーニングは、学習形態をブレンドすることであるとしている。また、広義でのブレンディッド・ラーニングについては、すべての学習に関わる物や環境を最適な形で選択し、統合的に使用することを意味するため、ブレンディッド・ラーニングの対象が広範囲過ぎて概念のエッセンスが薄まってしまう恐れがあると述べている。そこで本稿では、狭義での定義に倣い「対面授業と反転授業をブレンドすること」と定義する。

[2] 反転授業は Baker（2000）の Classroom Flip が最初で、日本の大学での実践は 2012 年頃から広がったと言われている。この反転授業が広まった理由として森（2016）では、以下のような理由が考えられると報告している。

(1) 反転授業が導入しやすい学習環境の整備（タブレットやスマートフォンを手軽に携帯するようになった）があった。
(2) 単位制度を実質化する具体的な予習方法として適した。
(3) 教員のニーズにマッチした。
(4) 大学教育改革におけるアクティブラーニングの文脈にマッチした。

2. 授業科目の概要

島根大学の外国語教育センターでは、全学部の新入生[3]に対して4つある初修外国語の中から選択必修科目として「韓国朝鮮語I」、「韓国朝鮮語II」[4]を開講している。本稿の調査対象である「韓国朝鮮語Ⅰ」は毎年前期に実施され週2回出席することが定められている。授業の目的は、読む・聴く・話す・書くという4技能バランスのとれた韓国・朝鮮語の運用能力を養うことと、英語以外の外国語を学ぶことで多元的文化の理解を目指すことである。また、科目の達成目標として設けているのは、以下の4つである。

(1) ハングルが読めるようになり、基本文法の知識が身について基本的な文章の解読や簡単な会話ができる。
(2) 現代韓国・朝鮮語圏文化を理解することができる
(3) 英語以外の外国語を学ぶことで、日本語、日本文化をより客観的に見る視点を獲得し、多くの文化が共生する地球に生きている自覚と責任を持つことができる。
(4) 大学生として新たな外国語を学ぶことで、これまでの学習方法や学習観を自ら振り返って客観化でき、それらを主体的・能動的に転換することができる。

3. 学修時間の確保と授業の活性化を促すための試み

ここでは2017年度前期に筆者が担当した「韓国朝鮮語Ⅰ」において授業を活性化するための試み、そして、反転授業を使った学修時間の確保についての試みについて、その手法を述べる。

3.1 調査対象[5]

本稿の調査対象は筆者の「韓国朝鮮語Ⅰ」を履修している「法文学部」20名、「教育学部」39名、「生物資源学部」32名、「総合理工学部」25名である。また、すべて1回生の新入生である。性別は、男女ともに58名ずつで、合計116名である。学習者の平均年齢は18.5歳で、全員が日本語母語話者である。

3.2 学習者の要望確認

筆者は「韓国朝鮮語Ⅰ」を担当[6]してから毎年初回の授業で、アンケートの形式で授業運営について希望調査を行い、それを授業に反映している。その際、以下のような共通した

[3] 学部の都合上、韓国朝鮮語Ⅰの再履修クラスを受講できない2、3、4回生が1回生の授業に混ざる場合もある。今回も4回生が一人だけいたが、アンケート調査時に欠席をしたため調査対象には入っていない。
[4] 前期（1コマ90分の授業を週2回、計30回実施）と後期（2科目に対して科目ごとに1コマ90分の授業を週1回ずつ、計30回実施）である。「韓国朝鮮語Ⅰ」は統一したテキストを用いて韓国朝鮮語の基礎を教えている。「韓国朝鮮語Ⅱ」は、「文法」、「読む・書く」、「総合（前期の総合基礎を引き継ぐ授業内容）」、「検定対策」、「話す」、「聞く」の6つの中から2科目を選択させ、各科目に特化した内容を自主作成し教材を用いて教えている。
[5] 調査対象は、名簿通りの人数から欠席が多くて未修になった学習者とアンケート調査時に欠席をした学習者を除いた人数である。因みに、名簿通りの人数は以下の通りである。
「法文学部」21名、「教育学部」42名、「生物資源学部」36名、「総合理工学部」28名である。
[6] 筆者は2010年～2017年の8年間「韓国朝鮮語Ⅰ」科目を担当した。

要望が多数寄せられている。

（1）楽しく勉強したい。
（2）初めてなので時間をかけて丁寧に教えてほしい。
（3）疑問点について質問ができるようにしてほしい。
（4）韓国語で会話をしてみたい。
（5）韓国文化などにも触れてほしい。

上記のような学習者の要望が多くあるにも拘らず、初修外国語の教員であれば誰しもが抱えている悩みとして、実際の教育の現場では学習者のレベルのばらつき[7]が大きく、また、学修時間は不足しているということが挙げられるだろう。それでも、教員は常に工夫を凝らし授業の活性化と学修時間の確保に向けて努力せざるを得ない。上記の（1）に関しては、楽しく勉強できると同時に授業の活性化にも効果があると報告があった、林（2014、2015）と林・朴（2017）によって提唱された「グループワークによる学習」を取り入れた。しかし、この「韓国朝鮮語 I」にそのまま適応させるには調整が必要だったため、さらに「語呂合わせによる学習」を取り入れた。このことで前述の報告と同様、あるいはそれ以上の結果が出ることを期待した。（2）は、毎年一番多く寄せられる要望で、これについては対面授業と反転授業を融合した「ブレンド型授業」を行うことによって改善を試みた。（3）については、動画を見ながら疑問点などを書いてもらう「リアクションカード」[8]を取り入れることで解決しようした。 また、（4）は、授業で「移動式会話の実践学習」を行うことで学習者の要望に応えようと試みた。最後に上記の（5）は、「伝統衣装の実体験[9]と異文化学習」と「異文化についてのグループ発表による学習」を授業で導入することで改善を試みた。実際に行った授業での工夫については 3.4 で詳しく述べる。

3.3. 授業の具体的な進め方

筆者は授業の進行において、分かりやすくて楽しい授業を心掛け、受け身で聞いているだけの学習者から知的好奇心を呼び起こし、できるだけ主体的な学びとなるようにするために、（1）グループワークを積極的に取り入れて学習者同士の連帯感が生まれるよう授業の活性化に努める、（2）反転授業を用いて足りない学習時間の確保をしつつ、いつでも予習と復習が出来るようにし、即座にフィードバックができるよう備えておく、（3）復習時と試験勉強時に役に立つよう、リアクションカードを用い動画を見ながら授業のキーポイントとなる内容を書かせる。また、その際、授業中に出来なかった質問や気になる疑問点

[7] 島根大学では、英語は TOEIC の試験結果によってクラス分けをしているが、初修外国語は英語とは違って入学直後に学習者に対して習いたい外国語に対する希望調査をし、できるだけ希望通りの外国語を学べるように学部別のクラス分けをしている。つまり、学習者のレベルのばらつきは否めないのが現状である。
[8] リアクションカードの質問項目は、（1）「授業内容のポイントを書いてください」、（2）「授業内容のまとめを書いてください」、（3）「授業内容への疑問（疑問に思った点、よく理解できなかった点など）を書いてください」（4）「授業への感想（講義に対する要望､その他教員へのメッセージなど）を書いてください」である。
[9] 朴（2016）では、学習者が最も好んでいる学習活動は「体験学習」であると報告している。

なども書かせて次回の授業時に返信する、(5) 韓国や韓国文化についても興味を持ちやすいよう、韓国や韓国文化についてのグループ発表と体験学習をさせ主体的な学びとなるように働きかける。

以下に、授業の具体的な進め方について時系列的に紹介する。

(1) 授業スタート 10 分前に教室に入る。早めに教室に入りその日に使うプリントの配布やリアクションカードの配布と韓国文化の紹介のためのパソコンのセッティングなどを行う。これは学習者と接する機会を増やすという意味合いもある。
(2) 毎回授業の最初に、単語テスト（ペーパーテスト）を行う。(10 分)
(3) 単語テスト後に、前回授業の時に書かせたリアクションカードの質問事項のうち多く寄せられたものについて解説する。(5 分)
(4) その後、その日に習うべき文法事項を簡単に解説[10]した後、練習問題を通じてその日に教えた内容が身につくようにする。このとき、授業者は学生一人一人見て回りながら練習問題の間違いなどを指摘していく。(30 分)
(5) 練習問題が終わった後、学習者を 4 つ～ 6 つのグループに分け、その日に学んだ文法事項と単語と文型が書いてあるフラッシュカード式の紙を用いた筆者がカルタ式グループワークと呼んでいる対戦式アクティビティ[11]によって理解を深める。実際のやり方は次の通りである。カードを配って机の上に並べるように指示する。その後、授業者が日本語で問いを出し、その日本語に該当するカードをメンバー同士で協力し合い正しく揃えて、最初に手を挙げ韓国語で正解を答えたグループを勝ちとするというものである。このときも、リーダーの一人が韓国語「シージャㄱ（日本語：せえの)」を発したら、グループメンバー全員が一緒に答えるようにしている。このように、このゲームを行うことで、メンバー全員が参加意識と達成感を得られるようにしている。(20 分)
(6) 次回まで覚えてくる単語の確認とともに授業者に続いて 2 回音読させる。また、次回の授業の概略についてのアナウンスも行う。(5 分)
(7) 授業終了直前に、テキストに載っていない旅先で使える表現などを教えている。例えば、「お腹空いた～！（ア～ペゴパー！)」のような表現である。(5 分)
(8) リアクションカードを用いて今日の授業を振り返ってもらい、疑問点[12]などを書かせる。(5 分)
(9) 授業の内容と時間の都合によって実践できない場合もあるが、パソコンを使った PPT 資料を用いて、日韓のしぐさの違い、食文化の違い、日常生活の違い、結婚式の違い、大学生活の紹介、K-POP の歌などを紹介している。これは、異文化の存在に積極的に気づか

[10] 学習者は、その日に習うべき事項について予習として動画を視聴して授業に参加するため、解説は簡単にし問題演習を豊富にさせるようにしている。また、文法事項の解説が終わった直後に次の解説部分に移るのではなく、各自理解する、頭の中で整理する時間を 2 ～ 3 分程度与えている。
[11] 授業前半の文字習得の際には、単語が書いてあるフラッシュカード式の紙を配って机の上に並べるように指示し、授業者が韓国語で発音するカードをメンバー同士で協力し合い、早く見つけ、先に手を挙げ韓国語で発音するグループを勝ちにする形式で行っている。
[12] 動画を視聴しながら授業のポイントなどは家で書いてくるため、復習でもある対面授業での解説を聞いた後に疑問点と授業の感想などを書かせている。

せることを目的としている。（10 分）

3.4　授業実践上の工夫

以下に反転授業を用いて足りない学修時間を確保するために施した試みと学習者の活性化を支援するために実際に筆者が授業で施した工夫について述べる。

3.4.1. グループワークによる学習

3.2 で述べた（1）「楽しく勉強したい」という学習者の要望に応えるために、グループワークによる学習を取り入れた。これをさせることにより、他者との相互作用の機会を多く与えることができ、共通したゴールをも持たせることができる[13]。岡坂などは、連帯感や達成感が生じることを目指した。一方で、グループワークを行う際の留意点として、学習者個々人が何をしないといけないのかはっきりと分かるように具体的な教示が大切であることを指摘している（岡坂 1991；林・朴 2017）。そこで、筆者は以下の点に十分配慮し、グループワークによる学習が効率的な学習活動として機能できるよう工夫を加えた。

3.4.1.1. グループの編成方法

グループワークにおいて能率的に学習を進めるのに好ましい人数は学習環境によって異なるであろう。しかし、「韓国朝鮮語 I」の授業は学部毎に統一されているため、学習者間でレベルが大きく異なるということが生じてしまう。それゆえあらかじめ判明している人数と男女の割合だけを考慮し、できるだけ均等になるようグループ分けを行った。ただし、中間試験の終了後に明らかになじめない学習者がいたりレベルの差が激しかったりした場合は、ただちにメンバー交代を行った。

3.4.1.2. グループのリーダーの選出とグループ名の決定

グループのリーダーの選出は、初回の授業時にメンバー間のじゃんけんで決め毎回交替するように行ったが極力学習意識の低い学生がリーダー役につかないよう配慮した。それは、他のメンバーに刺激を与えたり、教えたりするという方法を取る方が学習者のやる気を出させるのに効果があると考えたからである。さらに、グループ名の決定も初回の授業時にメンバー同士で話し合って決めさせた。また、これは韓国と韓国朝鮮語に関連するものに限って決めるよう指示した[14]。例えば、付けられたグループ名としては「キムチチーム」、「マシッソヨチーム（韓国のおいしいという単語）」、「ヒョンデチーム（韓国の自動車メーカー名）」、「トッポギチーム（料理名）」のようなものがあった。

[13] 林・朴（2017）では、相互協力しながらそれぞれの考え（意見）を比較・統合していく作業をすることによって、知識がより深化できると報告している。
[14] 林・朴（2017）によれば、グループ名を決めさせる目的は、共通の名前のもとに活動することで連帯感を醸成させ、そのグループ内での学習動機を向上させるためであるとしている。

3.4.1.3. 教室選定上の工夫[15]

グループワークによる学習を効率よく行うため、机と椅子を自由に動かせ、かつ教員が容易にグループに近づきフィードバックができる、スペースに余裕のある 2 つの条件を満たす教室を選んだ。

3.4.2. 動画による学習[16]

3.2 で述べた（2）「初めてなので時間をかけて丁寧に教えてほしい」という学習者の意見に応えるために、事前学習と事後学習ができるようインターネット上の動画による学習を取り入れた。

授業はすべて 31 回であるが、動画は初回のオリエンテーション、第 16 回目の中間試験、第 31 回目の期末試験を除いた全ての回に対応させた。つまり計 28 回[17] 反転授業を実施したことになる。

対面授業では、事前学習と同じ内容のことを教え、学習者の理解度を高めるように考慮した。ただ、学習者が 2 度同じ解説を受けることを避けるため、対面での解説は極力簡単に終わらせ、問題演習やグループワークによる学習活動に取り組む時間を多く確保した。このような動画による学習を積極的に取り入れることにより、自宅で気楽に事前学習をすることができ、教室では復習の傍ら事前学習での疑問点や理解できなかった点などを確認することができ、学習者個々人に対してのフィードバックにも一助できる。さらに、対面授業後の事後学習にも活用することができるため、足りない学修時間の確保できると期待している。

学習者は毎回以下の流れで事前学習をし、授業に参加するよう指導を受けた。

①ユーチューブにアクセスをし、事前学習の動画を視聴する。
②その際、事前に配布した資料とテキストを参考にしつつ動画内容を確認する。
③リアクションカードに動画の内容と疑問点などを記入する。
④次回の対面授業後にその日の授業の感想とさらなる疑問点などを記入し授業後に提出する。
⑤提出したリアクションカードは次回の授業時に返却され、復習や試験勉強時に利用する。

[15] 島根大学では前の学期の最後に次の学期の時の教室希望調査を行っていて、その際、教員がグループワークによる学習に適切な教室を希望し対応している。
[16] iPad 用のアプリ (Explain Everything) を用いて対面授業時と同じ解説の動画（20 ～ 30 分程度）を作成し、それをユーチューブに載せて家で事前に予習をしてくるようにしている。また、動画を視聴したかどうかの確認をするために、リアクションカードを配布し何を視聴したかを書かせて対面授業時に提出させている。それにより、事前学習と事後学習も可能であるし、復習をしたいときにいつでも繰り返して勉強が可能になる。さらに、反転授業のお陰で対面授業時に時間的な余裕も生まれるため、練習問題を解く時間と学習者一人一人をフィードバックする時間も増えるようになる。
[17] この反転授業のうち、特に学習項目の多かったある授業では動画を 2 回に分け詳細に説明した。他の回の授業に対応する動画としては、おおよそ 2 回の授業に対し一つの動画を用意した。

3.4.3. リアクションカードの活用

3.2 の（3）「疑問点について質問がしたい」という学習者の声に応えるため、事前学習のときと対面授業後にリアクションカードを用いて授業の感想を含め、疑問点などを書かせている。筆者は、学習者が学習内容を十分に理解しているのか、疑問点や要望はないのか、といった点について教員が授業中に声をかけても学習者は発言しないことが多いため、フィードバックしづらいのが問題であると痛感していた。そのため、事前学習時と対面授業後に学習した内容について振り返ってもらうよう、リアクションカード（学習者と教員の間の双方向性の授業の確立を目的に用いるカード）を提出させることでその解決を試みた。

リアクションカードは実際に以下のような意図で用いられた。(1) 質問と疑問点をリアクションカードに書かせて、複数の学習者が共通して疑問に思っている点については次回の講義で解説する。(共通しないものについては、学習者個々人に対してフィードバックを行う)、(2) 講義に対する要望を毎回書かせその都度次回の授業で改善されるように努める、(3) リアクションカードにその日の授業に対する感想をも書かせる、(4) 受け取ったリアクションカードに対し、全員に毎回一言ずつコメントを書き、絵文字とともに返却する。この取り組みにより、学習者それぞれの顔と名前を覚えやすくなるとともに、信頼関係の構築にも役立つ。また、次回の授業時にフィードバックをすることも可能であるため毎回行った。筆者自身の実感ではあるが、リアクションカードを用いることにより、教員と学習者の両方が満足できる授業に少しでも近づけたのではないかと考えている。また、この取り組みではより多くの学修時間の確保[18]とともに、授業に対する学習者の反応や理解度を確認する方法としても非常に有益ではないだろうか。

3.4.4. 語呂合わせ[19]による学習

3.2 で述べた（1）「楽しく勉強したい」という学習者の要望に応えるために、単語と発音のルールなどを楽しく暗記できるよう工夫を施し、語呂合わせによる学習を試みた。この学習スタイルは学習者が受験勉強の時に一度は経験済みの学習活動であるため、馴染みやすいし長期記憶の保存にも効果があると判断したからである。また、可能な限りリズムに乗って暗唱し覚えられるように工夫を加え、教員が見本を見せそれに続くよう促した。

3.4.5. 移動式会話の実践学習

3.2 で述べた（4）「韓国語で会話をしてみたい」という学習者の意見に応えるために施したものであり、普段接する機会の少ない友達の場所へ行き質問し合うように指示を出し、座ったままのペア練習ではなく移動式の会話実践になるように行った。そのため、座学で起こりがちな居眠りを防ぐ一方、他の学習者との話し合いの中で仲間意識（同じ趣味や好みなど）が生まれることもあれば、相違点なども知ることができ比較的楽しみつつ気楽な

[18] 実際の授業中に学習者一人一人に対して、個別に全員の質疑応答をすることは時間と労力が必要となり、授業中に学習者全員の質問と疑問点に対して教員が解説を行うということは限界がある。
[19] 青木（2002）では、語呂合わせはもともと、江戸時代に人々が歌や落語の中で言葉遊びを楽しむために作られたものであるが、現代では主に、何かを覚えるために使われているとしている。

気持ちで習った学習内容が習得できるとうかがえる。

3.4.6. 伝統衣装の実体験と異文化学習

3.2 で述べた（5）「韓国文化などにも触れてほしい」という学習者の声に応えるために、伝統衣装（チマチョゴリ）の試着体験をさせ、教員が作成した日韓の文化・社会の類似点と相違点[20]について、パワーポイントを用いて授業中に紹介し、学習動機が向上するよう働きかけた。ただし、その日に習うべき文法事項によっては時間の都合上、紹介不可能な場合もあるのが実情だった。このような実体験学習と、間接的ではあるが、韓国の文化に触れる機会を積極的に取り入れることは、異文化に対する関心を深め学習意欲の活性化にも有意義な取り組みとなると判断し実施した。

3.4.7. 異文化についてのグループ発表による学習

この節は、3.4.6. で述べた「伝統衣装の実体験と異文化学習」と同様、「韓国文化などにも触れてほしい」という学習者の要望に応えるために行ったものである。ただし、教員が作成した資料を解説する方式ではなく、グループのメンバー同士が話し合って決めるテーマで発表させるようにした。この際注意した点は、グループ間のテーマの重複と発表しやすいテーマ選びを避けることだった。それゆえ、テーマはグループごとに紙に書かせて教員が多少の調整を行い、テーマの重複などが起きないように注意を払った。学習者自らが関心を持っていて調査してみたいと申し出たテーマについて発表させるこの方法は、自然と主体的な学びにつながりやすく、韓国や韓国語に対しても関心が深まっていきやすいと考えられる。さらに、個人発表ではなくグループのメンバーと協力しながら準備などを行うため、メンバー同士が連帯感を経験できることはもちろん、彼らは発表が終わった後に達成感も大いに得ることが期待できる。

4. 授業後のアンケート調査[21]の結果と考察

ここでは最後の授業時に実施したアンケート調査の考察結果について述べる。「韓国朝鮮語 I」に参加した学習者 116 名に対して、（1）「グループワークによる学習」（2）「動画による学習（対面授業と反転授業を融合したブレンディッド型授業）」（3）「リアクションカードの活用（4）「語呂合わせによる学習」（5）「移動式会話の実践学習」（6）「伝統衣装の実体験と異文化学習」と（7）「異文化についてのグループ発表による学習」について学習者がどのように感じたのかについて選択式の質問項目と自由コメント欄を設けて回答を求めた。また、アンケート用紙の最後には自由記述式でこの科目に対する学習者の率直な感想の記入も求めた。

[20] 実際に行った異文化学習は、「日韓のしぐさの違い」、「日韓の食文化の紹介と違い」、「日韓の日常生活での違い」、「日韓の結婚式の紹介」、「ファッションやコスメ関連の紹介」などである。
[21] アンケート項目のうち、質問 2、3 は複数回答であることを断っておく。

4.1. グループワークによる学習に対する学習者の感想から

表1は学習者に「グループワークによる学習」について尋ねたその回答である。質問1の「グループワークによる学習は？」に対しは、「よい」と答えた者が全体の9割近くおり、学習者に好評価を得ていることが見て取れる。質問1で「よい」と答えた理由について、質問2の回答で最も多かったのは「リラックスした雰囲気で楽しく学習できるから」というものである。これは、学習者同士で話し合うことによって緊張感から解放され、リラックスした状態で学習に取り組むことができたという理由によるものだと考えられる。次に多かった回答は「友達と協力してやれるから」と「友達同士で互いに分からない点など聞きやすいから」というもので両方とも2割程度である。これは協力しないと他の人に迷惑をかけてしまうという気持ちから積極的な授業への参加に繋がり、それによって学習者同士で連帯感も生まれ、授業の活性化にも繋がったという好ましい連鎖が発現したからではないかと思われる。また、分からない部分を教員ではなく学習者同士の話し合いで解決するということを通じ、互いの刺激にもなり、楽しく学習することができたとも考えられる。

それとは逆に、質問3の「質問1で②または③と答えた人の場合、その理由は？」という項目に対しては、「グループで学習すること自体が好きではなく、なじめないから」と「グループに協調性がなく、覇気に欠けるから」を挙げた者が最も多く、それぞれ4人ずついた。これに関しては、毎年数は少ないが必ず出てくる意見であり、人と関わりが苦手な学習者に対しては教員が常に注意を払う必要があると考えている[22]。質問4の「グループワークによる学習でグループ間の競争は？」について「よい」と答えた学習者の割合は85%である。残りの15%は「よくない」「どちらともいえない」を選んでおり、自由コメント欄では「普段接することの無い人達と関わる良い機会であるし、クラスの交流を深めることは良い・・傾向に繋がるとは思うが、反対にそのせいで集中できない人もいる」といった意見が見られることから、その15%は「グループによる学習自体が苦手な人」であることが考えられ、彼らに対しては教員が注意を払いつつ、素早いメンバー交代などのフォローが必要だったといえるだろう。

さらに、質問5の「グループワークによる学習は勉強（理解）に役に立ったか？」に対しては、「役に立った」と答えた学習者の割合が約9割であった。これは、「どちらとも言えない」と答えた者が1割強いたものの、筆者が行ったグループワークによる学習は彼らの韓国朝鮮語の勉強と理解に意義のある取り組みであったといえよう。

表1.「グループワークによる学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問1. グループワークによる学習は？		
① よい	**103**	**88.8%**
② よくない	2	1.7%
③ どちらとも言えない	11	9.5%

[22] 教員の判断のもとで該当する学習者に対してはグループ替えを行い、その後の様子を見守ることで配慮はしている。

質問 2. 質問 1 で①と答えた人の場合、その理由は？		
① 従来と違うスタイルで面白いから	33	10.4%
② リラックスした雰囲気で楽しく学習できるから	**74**	**23.3%**
③ 話し合ううちに韓国朝鮮語（内容）に関する興味を深めるから	26	8.2%
④ 友達と協力してやれるから	66	20.8%
⑤ 友達同士で互いに分からない点など聞きやすいから	63	19.9%
⑥ 刺激を受けて、よく学習するようになるから	13	4.1%
⑦ 対戦式なのでやる気が出るから	41	12.9%
⑧ その他[23]（具体的に書いてください）	1	0.3%
質問 3. 質問 1 で②または③と答えた人の場合、その理由は？		
① 友達間の勉強では不安だから	2	14.3%
② グループで学習すること自体が好きではなく、なじめないから	**4**	**28.6%**
③ 時間をかける割には能率が上がらないから	2	14.3%
④ 先生に当てられる心配もなく、サボるようになるから	1	7.1%
⑤ グループに協調性がなく、覇気にかけるから	**4**	**28.6%**
⑥ グループのメンバーが気に入らなくてやる気が出ないから	-	-
⑦ その他[24]（具体的に書いてください）	1	7.1%
質問 4. グループワークによる学習でグループ間の競争は？		
① よい	**99**	**85.3%**
② よくない	2	1.7%
③ どちらとも言えない	15	12.9%
質問 5. グループワークによる学習は勉強（理解）に役に立ったか？		
① 役に立った	**101**	**87.1%**
② 役に立っていない	1	0.9%
③ どちらとも言えない	14	12.1%

以下は、「グループワークによる学習」に対し、表 1 の質問の他に学習者が自由コメント[25]を記入したその引用である。多数寄せられたコメントの中から筆者が選定を行い、肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけて紹介する。

●「競争」ということで良いプレッシャーになった。
●友達の理解度がはかれるのでいい刺激になった。勝ったチームに得点付けるのは良かった、やる気がでた。
●ゲーム形式で楽しく韓国語を学べた。
●協力することの大切さを学びました。
●楽しい雰囲気の授業になるので、講義の多い一週間の中で楽しみになった。
★普段接することの無い人達と関わる良い機会であるし、クラスの交流を深めることは良い・・傾向に繋がるとは思うが、反対にそのせいで集中できない人もいる。例えば、人見知りであるとか他のグループを競争するから足を引っ張ると迷惑がかかると思ってしまったりとか。

[23] 授業が受けやすい。
[24]「その他」には「人見知りだから」
[25] 自由コメントは原文のまま載せている。

★それぞれで個性が出て面白かったが、人によっても手もちぶさたになっている人もいたように感じた[26]。

4.2. 動画による学習の感想から

表 2 は学習者に「動画による学習」について尋ねた結果である。質問 1「動画による学習は？」に対し、「よい」と答えた者が全体の 8 割近くいて、4.1 で紹介した取り組みほどではないものの、強い支持を得ているといえるだろう。質問 1 で「よい」と答えた理由を尋ねた質問 2 では、その返答として最も多かったのは「一人でも学習できるから」であり、次に多かったものは「いつでも復習することができるから」である。これは、動画による講義を家で時間の制限もなくいつでも自由に視聴できるのと同時に、分からない部分があれば繰り返し再生することもできるため、学習者に好意的に受け入れられたのではないかと思われる。また、質問 4 の「動画による学習は勉強（理解）に役に立ったか？」と尋ねたものでは、「役に立った」と答えた学習者の割合が 85%であった。「動画による学習」を通じて対面授業だけだと足りない部分を事前学習と事後学習で補えたことによって、学習者の勉強と理解に良い影響を与えたことが示唆されるだろう。

その反面、質問 3 の「質問 1 で②または③と答えた人の場合、その理由は？」について「動画で学習する自体が好きではなく、なじめない」と「動画なので集中できない」との回答に加え、自由コメント欄では「動画で資料とほぼ同じような事を言っているので動画を見る必要性をあまり感じなかった。それと良いことに動画を見ない人もいる。動画限定のオトクな情報があれば視聴性も増すのではないか。」との意見も寄せられた。事前学習と対面授業での解説を同様な内容にすることによる高い学習効果を狙った取り組みであったが、上記のような学習者の貴重な意見を踏まえ、今後はメリハリのある動画の作成と集中力が保てる動画の長さを調整するなどのさらなる工夫が必要であると考えている。

表 2.「動画による学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問 1. 動画による学習は？		
① よい	**92**	**79.3%**
② よくない	3	2.6%
③ どちらとも言えない	21	18.1%
質問 2. 質問 1 で①と答えた人の場合、その理由は？		
① 従来と違うスタイルで面白いから	24	11.8%
② 一人でも学習できるから	**54**	**26.6%**
③ 勉強に役立つから	33	16.3%
④ いつでも復習することができるから	49	24.1%
⑤ 家でリラックスした雰囲気で学習できるから	35	17.2%
⑥ その他[27]（具体的に書いてください）	8	3.9%

[26] このコメントに関しては、グループによる学習をする中で一番注意しなければいけない部分であり、教員が関心の目を向けて見守りつつ適宜対応をしていくしかないと考えられる。

質問 3. 質問 1 で②または③と答えた人の場合、その理由は？		
① 一人での勉強は不安だから	1	5.0%
② 動画で学習する自体が好きではなく、なじめないから	**6**	**30.0%**
③ 時間をかける割には能率が上がらないから	3	15.0%
④ 動画なので集中できないから	**6**	**30.0%**
⑤ 覚えにくいから	3	15.0%
⑥ その他[28]（具体的に書いてください）	1	5.0%
質問 4. 動画による学習は勉強（理解）に役に立ったか？		
① 役に立った	**99**	**85.3%**
② 役に立っていない	-	-
③ どちらとも言えない	17	14.7%

以下は、「動画による学習」に対し、表 2 の質問の他に学習者に自由コメントを求め、得られたものの引用である。肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけている。

●説明が 2 回聞けるので理解度が上がった。リアクションカードのわからなかった所を書き込める欄は役に立った。
●動画で予習してさらに授業で理解を深めることができてよかった。
●引っ込み思案であまりできなかったけど良かったです。
★動画で資料とほぼ同じような事を言っているので動画を見る必要性をあまり感じなかった。それと良いことに動画を見ない人もいる。動画限定のオトクな情報があれば視聴性も増すのではないか。

4.3. リアクションカードの活用の感想から

表 3 の質問 1 の「リアクションカードの活用は？」に対し、「よい」と答えた者が全体の 8 割を超えており、学習者に好評価を得ている様子がわかる。リアクションカードの活用を「よい」とする理由を尋ねた質問 2 において最も多かった回答は、「何を習うのかと習ったのかが分かるから」であり、次に多かったのは「授業の理解と勉強に役に立つから」である。また、質問 4 の「リアクションカードの活用は勉強（理解）に役に立ったか」に対して、「役に立った」と答えた者は約 9 割であることから、これまでに述べた他の取り組みと同様に、この取り組みも学習者の授業に対する理解と勉強に有効であったと言える。これは、学習者がその日に習うべき学習内容を事前学習と対面授業のとき、振り返ってリアクションカードに書くことにより、学習者が何を習ったのか確認できたからだと思われる。また、リアクションカードの質問欄を活用することで、教員に直接質問するのをためらう学習者であっても気軽にいつでも質問できる環境づくりができる。これが、学習者自ら学

[27]「その他」には、「都合の良いときに予習できるから、習った単語を探そうとするから、授業で問題演習の時間が増えるから、事前に学習することで授業の時理解度が上がるから、分からないところがあっても巻き戻せるから、何回でもくりかえしができる、予習がやりやすい、予習として学習できた」があった。
[28]「その他」には、「見ないから。でも見る人からしたらいいと思う」があった。

習内容に対して問いかけることを促し、主体的な学びに繋がったと推察される。

一方で、リアクションカードの活用を「よくない」とする理由について尋ねた質問 3 では、「書くのに時間がかかるし面倒だから」を挙げた人が 5 人いた。数は少ないものの、このような学習者の意見も参考にし、書かせるのではなくオンライン上でパソコンを使い打ち込めるようにするなど、さらなる工夫と配慮する必要があると実感している。

表 3.「リアクションカードの活用」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問 1. リアクションカードの活用は？		
① よい	**100**	**86.2%**
② よくない	2	1.7%
③ どちらとも言えない	14	12.1%
質問 2. 質問 1 で①と答えた人、その理由は？		
① 従来と違うスタイルで面白いから	6	3.3%
② 何を習うのかと習ったのかが分かるから	**62**	**33.7%**
③ 授業の理解と勉強に役に立つから	59	32.1%
④ 復習のときに役に立つから	50	27.2%
⑤ その他[29]（具体的に書いてください）	7	3.8%
質問 3. 質問 1 で②または③と答えた人、その理由は？		
① 勉強にならないから	-	-
② リアクションカードの配布自体が好きではなく、なじめないから	-	-
③ プリントの量が多くなるから	4	30.8%
④ 書くのに時間がかかるし面倒だから	**5**	**38.5%**
⑤ 時間をかける割には能率がよくないから	3	23.1%
⑥ その他[30]（具体的に書いてください）	1	7.7%
質問 4. リアクションカードの活用は勉強（理解）に役に立ったか？		
① 役に立った	**104**	**89.7%**
② 役に立っていない	2	1.7%
③ どちらとも言えない	10	8.6%

以下は、「リアクションカードの活用」に対し、表 3 の質問の他に学習者に自由コメントを求め、得られたものの引用である。肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけている。

●授業の不明点を書きこめるのでよかった。授業のまとめが一目でわかるので役に立った。
●後から見返すのに楽だった。
●自分の中で内容の整理ができるところが良かった。
★書くということが理解に繋がるとは思うが、時間が無い時には負担になってしまう（や

[29]「その他」には、「先生とやりとりできるから、先生とのコミュニケーションがとれる、まじめに動画を見る必要があるから、出席確認がとれるから、分からないことをきちんと書いてくれている、どこが分かっていないのかが判断しやすくなると思う、先生に質問できるから」があった。
[30]「その他」には、「動画見ないから」があった。

らない人の考え方)。

4.4. 語呂合わせによる学習の感想から

表 4 は学習者に「語呂合わせによる学習」について尋ねた結果である。質問 1「語呂合わせによる学習は？」に対し、「よい」と答えた者が全体の 9 割を超えているため、学習者の高い評価を得ていると言えるだろう。質問 2 でその理由を尋ねたものに対し最も多かったのは「覚えやすいから」であった。次に多かったものとしては、「リラックスした雰囲気で楽しく学習できるから」であった。また、質問 4 の「語呂合わせによる学習は勉強（理解）に役に立ったか？」という問いに、「役に立った」と答えた学習者の割合が 9 割近いことが確認された。これは、学習者が受験勉強の時などで経験済みだったことから、馴染みやすいし気楽な気持ちで楽しみつつ学習できたからだと思われる。また、この学習スタイルはリズムに乗って覚えることができるため、長期記憶に保存する効果があると筆者は確信している。さらに、学習者の「語呂合わせをまとめた動画があると覚えやすそうだと思いました」という要望については今後対応したい。また、質問 3 の「質問 1 で②または③と答えた人の場合、その理由は？」については「語呂合わせによる学習スタイルが好きではなく、なじめないから」を挙げた人が 4 人いる。また、自由コメント欄では「割と役に立つが、語呂とかんぺきに合わない部分が少しあり、逆におぼえにくくなる」、「分かりやすいものとそうでないものがあった」という意見も寄せられた。これらの意見を参考にし、可能な限り覚えやすく役に立つ語呂合わせにするためには改善の余地があると反省している。

表 4.「語呂合わせによる学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問 1. 語呂合わせによる学習は？		
① よい	**105**	**90.5%**
② よくない	2	1.7%
③ どちらとも言えない	9	7.8%
質問 2. 質問 1 で①と答えた人、その理由は？		
① 従来と違うスタイルで面白いから	10	7.8%
② リラックスした雰囲気で楽しく学習できるから	18	14.1%
③ 覚えやすいから	**97**	**75.8%**
④ その他[31]（具体的に書いてください）	3	2.3%
質問 3. 質問 1 で②または③と答えた人、その理由は？		
① 覚えにくいから	-	-
② 語呂合わせによる学習スタイルが好きではなく、なじめないから	**4**	**-**
③ 時間をかける割には能率が上がらないから	-	-
④ その他（具体的に書いてください）	-	-

[31]「その他」には、「これがないと頭に入ってこない、ごろあわせを覚えて単語を覚えられた、おもしろいから」があった。

質問 4. 語呂合わせによる学習は勉強（理解）に役に立ったか？		
① 役に立った	**102**	**87.9%**
② 役に立っていない	2	1.7%
③ どちらとも言えない	12	10.3%

以下は、「語呂合わせによる学習」に対し、表 4 の質問の他に学習者に自由コメントを求め、得られたものの引用である。肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけている。

●語呂合わせにすると長期記憶が可能となる。
● 1 つ 1 つ覚えるより覚えやすいと思った。
●圧倒的に覚えやすい。
●語呂合わせのおかげで覚えれたものもあるので、Ⅱの時もぜひ取り入れてほしい。
●語呂合わせをまとめた動画があると覚えやすそうだと思いました。
●他校の友だちに教えたりしました。
★割と役に立つが、語呂とかんぺきに合わない部分が少しあり、逆におぼえにくくなる。
★分かりやすいものとそうでないものがあった。

4.5. 移動式会話の実践学習の感想から

表 5 の質問 1 の「移動式会話の実践学習？」に対し、「よい」と答えた者は全体の 8 割近く確認されており、学習者に認められているとは言えるものの、もっと有益な学習とするためには改善の余地があると実感した。質問 2 で挙げられた、この移動式会話の実践学習を「よい」とする理由において最も多かったものは、「会話の練習にもなるし、頭に入りやすいから」で、次に多かったのが「リラックスした雰囲気で楽しく学習できるから」、また、「新しい友達もできるし、仲良くなれるから」というほぼ同数の意見である。これは、普段接する機会の少ない人と接することで新しい友達もできる傍ら、座ったままのペア練習ではないため、眠気を誘うことなく楽しく会話の実践練習ができたからだと見受けられる。また、質問 4 の「移動式会話の実践学習は勉強（理解）に役に立ったか」に対して、「役に立った」と回答した者も約 8 割いることが分かる。質問 1 と同様に他の取り組みに比べればやや低い支持ではあるが、学習者の授業に対する理解と勉強に役に立つ試みであると推定することは容易にできるだろう。しかし、質問 3 の移動式会話の実践学習に対して肯定的ではない意見として多かったのは、「移動式学習スタイルが好きではなく、なじめないから」、また、「時間をかける割には能率が上がらないから」の順で挙げられているのが分かる。上記の二つの意見を、合わせて 12 人が回答している。この取り組み自体が好きではなく、馴染めない学習者にも有益かつ実りのある学習活動になるよう試行錯誤していきたい。

表 5.「移動式会話の実践学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問 1. 移動式会話の実践学習は？		
① よい	**91**	**78.4%**
② よくない	5	4.3%
③ どちらとも言えない	20	17.2%
質問 2. 質問 1 で①と答えた人、その理由は？		
① 従来と違うスタイルで面白いから	22	11.7%
② リラックスした雰囲気で楽しく学習できるから	41	21.8%
③ 会話の練習にもなるし、頭に入りやすいから	**62**	**33.0%**
④ 覚えやすいから	20	10.6%
⑤ 新しい友達もできるし、仲良くなれるから	40	21.3%
⑥ その他[32]（具体的に書いてください）	3	1.6%
質問 3. 質問 1 で②または③と答えた人、その理由は？		
① 覚えにくいから	3	18.8%
② 移動式学習スタイルが好きではなく、なじめないから	**7**	**43.8%**
③ 時間をかける割には能率が上がらないから	5	31.3%
④ その他（具体的に書いてください）	1	6.3%
質問 4. 移動式会話の実践学習は勉強（理解）に役に立ったか？		
① 役に立った	**91**	**78.4%**
② 役に立っていない	2	1.7%
③ どちらとも言えない	23	19.8%

以下は、「移動式会話の実践学習」に対し、表 5 の質問の他に学習者に自由コメントを求め、得られたものの引用である。肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけている。

●実際に話すことでより深く理解できた。
●韓国語で話しながら覚えるということはしたことがなかったので新鮮だった。
●自分と同じ好みを持つ人がいることが分かって良かった。
●自分で体験しながらできるから覚えられる。
●眠気覚まし！！
●話すことも重要なスキルだと思うので、今後はさらに話せるようになりたいと思いました。
★正直、移動式学習が記憶の定着、理解につながったかは不明だが、楽しくできてよかった。
★賛否両論あり。良い点は体を使った言語学習は良い方法だから。・グループ外の人との接する機会が増える。よくない点は・グループ学習と同じ人見知りにはキツイ。

4.6. 伝統衣装の実体験と異文化学習の感想から

表 6 は伝統衣装の実体験と異文化学習を導入したことについて学習者に尋ねた結果である。質問 1 の「伝統衣装の実体験と異文化学習は？」に対し、「よい」と答えた者は全体

[32]「その他」には、「正直、面倒であるが比較的頭に入りやすい、眠気が覚めるから、コミュ力の上達」があった。

の 9 割近くいるのが分かる。これまで紹介したすべての取り組みと同様に、学習者がこの学習スタイルについても有意義な学習活動であると好評価していることになる。次に、この取り組みを「よい」と答えた理由について質問 2 から最も多かった理由として挙げられたのは、「貴重な異文化体験ができるから」であり、続いて「異文化体験を通じて韓国語に関する興味を深めるから」である。つまり、異文化の体験と学習をすることによって、自国文化と異文化との類似点や相違点などに気付きやすく、それによって進んで学ぼうとする知的好奇心が旺盛になったのだと推察される。回答の中では「従来と違うスタイルで面白いから」を選んだ学習者も 33 人（17.2%）いるが、それは、普段体験する機会の少ない貴重な学習活動であったため、新鮮味があり、これが意義深い取り組みに繋がったのだといえよう。また、質問 4 の「伝統衣装の実体験と異文化学習は勉強（理解）に役に立ったか」については､7 割を少し上回る程度の学習者が「役に立った」と回答している。これは、この体験学習と異文化学習の取り組みを通じて、より自国の外を実感することになり、学習者の異文化に対する興味と関心が高まったのではないだろうか。それに対し、伝統衣装の実体験と異文化学習を「よくない」とする理由については、質問 3 より、「その他」の意見として「着るのがめんどうくさいから」、「語学で文化の勉強をする意味がよくわからない」、「言語理解にそこまで関係ないと思うから」、「体験していないのでわかりません」と答えている人が 4 人確認された。筆者の実感ではあるが女子学生は伝統衣装に関心を寄せて体験してみたいと思っているが、男子学生は女子学生ほどこの取り組みに興味がないことに筆者は毎年悩まされている。今後、男子学生にとっても有意義な活動になるようなさらなる創意工夫を加える必要がある。

表 6.「伝統衣装の実体験と異文化学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問 1. 伝統衣装の実体験と異文化学習は？		
① よい	**101**	**87.1%**
② よくない	2	1.7%
③ どちらとも言えない	13	11.2%
質問 2. 質問 1 で①と答えた人の場合、その理由は？		
① 従来と違うスタイルで面白いから	33	17.2%
② リラックスした雰囲気で楽しく学習できるから	27	14.1%
③ 貴重な異文化体験ができるから	**95**	**49.5%**
④ 異文化体験を通じて韓国語に関する興味を深めるから	35	18.2%
⑤ その他[33]（具体的に書いてください）	2	1.0%
質問 3. 質問 1 で②または③と答えた人の場合、その理由は？		
① 楽しいと思わないから	3	-
② チマチョゴリの体験学習自体が好きではなく、なじめないから	-	-
③ その他[34]（具体的に書いてください）	**4**	**-**

[33]「その他」には「記念になる、楽しく他の班の人と関わりを持てました」があった。
[34]「その他」には「着るのがめんどうくさいから、体験していないのでわかりません、言語理解にそこまで関係ないと思うから、語学で文化の勉強をする意味がよくわからない」があった。

質問 4. 伝統衣装の実体験と異文化学習は勉強（理解）に役に立ったか？		
① 役に立った	**85**	**73.3%**
② 役に立っていない	5	4.3%
③ どちらとも言えない	26	22.4%

以下は、「伝統衣装の実体験と異文化学習」に対し、表 6 の質問の他に学習者に自由コメントを求め、得られたものの引用である。肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけている。

●韓国への興味をわかせるいい経験だと思う。
●韓国の文化を体験することはなかなかないので良い経験となった。
● The 大学という形の自由な学習スタイルと感じる。勉強！勉強！勉強！！だけでなく、異文化体験をすることは関心を深めるには良い内容。
●普段経験できないことができてよかった。
●日本以外の国の文化に触れることはなかなか簡単にはできないことなので、とてもいい機会になりました。
●日本との共通点や異なる点などが知れてよかった。
★[35]

4.7. 異文化についてのグループ発表による学習の感想から

表 7 は異文化についてのグループ発表による学習を実践したことについて学習者に尋ね返答してもらった結果である。質問 1 の「異文化についてのグループ発表による学習は？」に対し、「よい」と答えた者が全体の 8 割を上回っているのが見て取れる。つまり、筆者が行ったこの取り組みが 9 割を超えないまでも、学習者に価値のある取り組みとして認められたということになる。これについて「よい」と答えた理由として最も多かった意見は、質問 2 より、「異文化理解についての勉強になるから」であり、次に多かった回答は「異文化についての発表を通じて韓国語に関する興味を深めるから」というものである。すなわち、学習者自身が関心を持って調査してみたいというテーマであったため、それが自然と主体的な学びにつながり、韓国や韓国語に対しても関心が深まったと考えられる。また、個人発表ほどの負担もなく、グループのメンバーと協力しながら発表の準備などを行うため、メンバー同士間の仲間意識はもちろん、発表終了後の達成感も得ることができやすかったのではないかと思われる。さらに、質問 4 の「異文化についてのグループ発表による学習は勉強（理解）に役に立ったか」について尋ねた結果は、質問 1 と同様に 8 割半ばを上回る学習者が「役に立った」と返答している。前項の「伝統衣装の実体験と異文化学習」と同様な結果となり、学習者に好評を得ることができた試みであることが確認された。

その反面、質問 1 で「よい」以外を選択した学習者が質問 3 で回答した最も多かった意見は「メンバーとの協力が難しいから」であり、「その他」で挙げられたものとしては「発

[35] 幸いにもこの取り組みに関しては否定的な自由コメントはなかった。

表が苦手だから」、「1 人の負担が大きい」、「パワーポイント作成時間が少なく、いいものができにくいから」、などの声が出た。今回が初めてであったこの試みに関しては、今回が初めてであったため発表の準備などの時間設定やメンバー間の打ち合わせの段取りなども含め、筆者の工夫が不十分だったことを痛感しているが、学習者の自由コメント欄の意見としても、それが現れた結果となった。今後有意義な取り組みとして活用できるようにするための工夫の余地は大きい。今後の取り組みに繋げていきたい。

表 7.「異文化についてのグループ発表による学習」に対する学習者の評価

質問	回答数	割合
質問 1. 異文化についてのグループ発表による学習は？		
① よい	**98**	**84.5%**
② よくない	5	4.3%
③ どちらとも言えない	13	11.2%
質問 2. 質問 1 で①と答えた人の場合、その理由は？		
① 従来と違うスタイルで面白いから	23	12.9%
② リラックスした雰囲気で楽しく学習できるから	20	11.2%
③ 異文化理解についての勉強になるから	**86**	**48.3%**
④ 異文化についての発表を通じて韓国語に関する興味を深めるから	46	25.8%
⑤ その他[36]（具体的に書いてください）	3	1.7%
質問 3. 質問 1 で②または③と答えた人の場合、その理由は？		
① 楽しいと思わないから	4	21.1%
② 異文化発表の授業自体が好きではなく、なじめないから	-	-
③ 時間をかける割には役に立たないから	4	21.1%
④ メンバーとの協力が難しいから	**8**	**42.1%**
⑤ その他[37]（具体的に書いてください）	3	15.8%
質問 4. 異文化についてのグループ発表による学習は勉強（理解）に役に立ったか？		
① 役に立った	**100**	**86.2%**
② 役に立っていない	3	2.6%
③ どちらとも言えない	13	11.2%

以下は、「異文化についてのグループ発表による学習」に対し、表 7 の質問の他に学習者に自由コメントを求め、得られたものの引用である。肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけている。

●韓国の理解が深まった。

●自分で調べまとめることでより興味を持てた。

●結婚式の話が印象に残りました。

[36]「その他」には「グループのメンバーと協力することが楽しかった、たくさんの韓国の知識が入るため」があった。しかし、1 人はコメントなしであった。

[37]「その他」には「発表が苦手だから、1 人の負担が大きい、パワーポイント作成時間が少なく、いいものができにくいから」があった。

●自分たちで調べた上での発表だったので異文化内容が頭に入りやすかった。
●調べて発表することで、より深く学べ理解できた。
★役に立たなかったことはなかったが、他のメンバーとの打ち合わせがしづらい。
★もう少し準備期間を長くしてほしかった。

4.8. 授業全般における学習者の感想及び要望から

アンケート調査の最後に、この受講後の授業全体について学習者の率直なコメント（感想、要望など）を求めた。以下に学習者のコメントを紹介する。今回の調査では、否定的なコメントの内容がそれぞれの取り組みの自由コメント欄に寄せられた内容と重複したため、否定的な意見を意味する★印のものの紹介は省くことにする。本調査で寄せられた学習者の意見と今回の調査結果を考察することで得られた知見は、今後の韓国朝鮮語教育の改善と授業の質の向上に反映していきたい。

●韓国語の学習のみならず、映画鑑賞、発表、伝統衣装体験など別の視点からのアプローチもあって、メリハリのある授業だった。授業スピードもちょうどよかった。
●韓国語の学習は初めてでしたが、韓国の文化に興味をもちつつ、楽しく勉強することができました。
●授業の内容や教材がとてもていねいで分かりやすく、チマチョゴリの経験や、時間が余った時の動画やスライドなど韓国の文化に触れることもできてとてもよかった。
●気さくな方なのでリラックスして授業を受けることができた。後期から自由選択だが、なるべく○○先生の授業を取りたいと考えている。好きな（like）先生なので精一杯書きました。
●韓国に対しての興味が湧きました。仕事や旅行で行ったときに、必ず役に立つと思っています。次も○○先生の授業を受けたいです。
●大学に入って初めて韓国語を習ったが初めての自分でもわかりやすい授業だった。授業の雰囲気も学びやすいものだった。前期の間ありがとうございました。
●先生は優しいし、おもしろいし、教え方も上手なのでなんの不満もなく楽しく授業をうけられた。すすんで勉強しようと思えるようなふんいきだったし、とても最高です。
●授業を理解させることに重きを置いていたように感じます。そのおかげでスムーズに内容が理解できたし、韓国語の勉強に積極的に取り組むことができました。ありがとうございました。
●一人一人分かりやすく説明してくれたのが良かったです。毎回楽しかったです。
●授業自体楽しかったので行きたくなくなることがなかったです。ただ勉強しているだけでなく対戦とかDVDとかいろいろできたのでとてもよかったです。

5. まとめと今後の課題

本稿では、韓国朝鮮語教育の改善と学習者の学びの格差を小さくしつつ、より多くの学

修時間を確保するための知見を得る目的として島根大学で行った「韓国朝鮮語Ⅰ」の授業実践を報告し、授業後に実施したアンケート調査を基に学習者が学習活動に対してどのような意識を持っているのかを検討した。

筆者が担当したこの科目では、初回の授業時に、学習者へアンケート形式で授業運営についての希望調査をし、それを授業に取り入れた。その結果、実際の授業では「グループワークによる学習」、「動画による学習」、つまり、対面授業と反転授業を融合したブレンディッド型授業 、「リアクションカードの活用」、「語呂合わせによる学習」、「移動式会話の実践学習」、「伝統衣装の実体験と異文化学習」、「異文化についてのグループ発表による学習」の実施を試みた。授業後に実施したアンケート調査の結果、次のような課題が浮き彫りとなった。主たるものを挙げれば、それは、①「人と接する自体が苦手な人見知りの学習者への配慮」、②「動画による学習だと集中できない学習者と動画の長さへの配慮」、③「リアクションカードに手書きで書かせるのではなくオンライン上で打ち込めるようなプラットフォームの提供への工夫」、④「ばらつきがあり覚えにくい語呂合わせの調整」、⑤「民族衣装を着ることが面倒だと思っている男子学生への配慮」、⑥「発表の準備とメンバー間の打ち合わせの時間設定の工夫」の 6 点に集約できるだろう。

改善すべき点は多々あるものの、「韓国朝鮮語Ⅰ」の授業での様々な取り組みが学習者に以下のような高い支持と好評価を得られることができた。まず、「グループワークによる学習」は、リラックスした雰囲気で楽しく学習できたとの意見が最も多く寄せられた。これは、分からない部分などを教員との対面授業ではなく、学習者同士で話し合うことによって緊張感から解放され、リラックスした状態で互いに刺激を与えつつ、楽しく学習に取り組むことができたからだと考えられる。次に、「動画による学習」では、家で時間の制限もなくいつでも自由に視聴できるということに加え、理解できない部分があれば繰り返し視聴することもできるという前向きな意見が多かったことから、対面授業だけだと足りない学修時間を補うことができたといえるだろう。次に、「リアクションカードの活用」では、これから何を習う、また、何を習ったのかが明確であるということと、授業外での学習に役立つという意見が多くみられた。すなわち、リアクションカードを用いて学習内容を振り返って学習者自身で記入することにより、彼らが何を習ったのかを自ら確認できることと、気楽にいつでも質問できる環境づくりができるため、学習者は学習内容に対して問いかける意思が芽生えやすくなり、それが主体的な学びにも繋がることができたのだとうかがえる。次に、「語呂合わせによる学習」では、リラックスした雰囲気で楽しく学習でき、覚えやすいという回答が多数確認された。これは、学習者にとって馴染みのある学習活動であったため、気楽な気持ちで楽しみつつ学習できたのだろうと思われる。また、リズムに乗って覚えることができるため、学習内容の長期記憶にも効果があると評価されたことになるだろう。また、「移動式会話の実践学習」では、リラックスした雰囲気で楽しく会話の練習ができ、頭にも入りやすいという声が多数出てきた。また、これは座学的なペア練習とは違い、普段接する機会の少ない人と接することにより、新しい友達もできる傍ら、学生が眠ることを防ぐ効果がある学習活動という特徴を有しているからだろう。さらに、「伝

統衣装の実体験と異文化学習」に対して多く見られた意見としては、貴重な異文化体験ができたということと、異文化体験により韓国語にも興味が湧いてきたというものであった。これは、このような授業を行うことによって、自国文化と異文化との共通点や相違点などにも気付くこととなり、自ら学ぼうとする知的好奇心が旺盛になったからだと推察される。また、今回の調査結果からは別の科目で行った、林・朴（2017）による調査報告と同様な学習者の声が確認できることから、学習者が好む学習活動であることが再確認された。最後に、「異文化についてのグループ発表による学習」は、異文化について発表することにより、韓国語に関する興味も深めることができたとの回答が最も多くみられた。これは、学習者自らが関心を持っているテーマを発表内容としたことから、自然と主体的な学びにつながり韓国語学習に対しても関心が深まったからだと考えられる。また、個人発表ではなくグループのメンバーと協力しながら発表の準備などを行ったため、メンバー間の仲間意識が芽生えたことに加え、発表終了後の達成感も得ることができたことが示唆される。

今回の調査結果から明らかになった知見と改善すべき点を踏まえて、今後さらなる韓国朝鮮語教育の改善と学修時間の確保に向けて、反転授業と対面授業を融合したブレンディッド・ラーニングが可能な学習支援システムを開発・構築していきたい。

参考文献

이해영（2001）「한국어 학습용 웹사이트의 분석」『Foreign language education』한국외국어교육학회，8 권 3 호，285-314.

우인혜（2000）「한국어 인터넷 초급 교재 비교 분석 : 국제교육진흥원，모나쉬대，문화관광부，서강대 초급 인터넷 교재 중심으로」『새국어교육』한국국어 교육학회，60 권 1 호，55-85.

한상미 외（2012）「온라인 한국어 교육과정 개발을 위한 기초 연구」『외국어로서의 한국어교육』37，411-448.

한상미・김종인（2013）「모바일러닝 (Mobile Learning) 에 관한 한국어 학습자 의식 조사 연구」『외국어로서의 한국어교육』39，407-445.

青木賢太郎（2002）「コスト最小法を用いた言葉遊び―数字語呂合わせの自動生成システム」（第 10 回ことば工学研究会：人工知能学会第 2 種研究会資料）

岡坂愼二（1991）『グループ学習の技術（教育技術文庫）』明治図書出版.

林河運（2014）「韓国語学習者の意欲向上を目的とする学習法の試みとその検討―グループによる学習に注目して―」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第 9 号，119-133.

林河運（2015）「グループ学習を取り入れた韓国･朝鮮語のリーディング授業の実践報告」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第 10 号，95-110.

林河運・朴瑞庚（2017）「韓国・朝鮮語圏の文化教育授業における実践報告―授業の活性化を促すための試み― 」外国語教育センタージャーナル』第 12 号，95-111.

朴瑞庚（2016）「韓国語教育における社会文化学習を考える―アンケート調査に見られる学

習者の意識―」『ことばとくらし』第 28 号，1-12.
鈴木康洋・金義鎭・金惠鎭（2012）「韓国語学習におけるモバイル端末用の電子教科書の実践活用とその評価分析」『研究報告コンピュータと教育』2012-CE-117(4)，1-7.
曹美庚（2008）「e-Learning システムを活用した自律学習環境づくりの試み―韓国語教育における実践を中心に―」『大学教育』14，43-59.
宮地功（編著）安達一寿・内田実・片瀬拓弥・川場隆・高岡詠子・立田ルミ・成瀬喜則・原島秀人・藤代昇丈・藤本義博・山本洋雄・吉田幸二（著）（2009）『e ラーニングからブレンディッドラーニングへ』共立出版.
森朋子（2016）「アクティブラーニングを深める反転授業」溝上慎一（監修）安永悟・関田一彦・水野正朗（編）『アクティブラーニングの技法・授業デザイン』東信堂，88-109.
Baker, J. W.（2000）The “Classroom Flip”: Using Web Course Management Tools to Become the Guide by the Side. In J. A. Chambers (Ed.), *Selected Papers from the 11th International Conference on College Teaching and Learning*, 9-17. Jacksonville: Florida Community College at Jacksonville.